

### 3 . 安全性をより向上させるための今後の視点

福知山線列車事故後、すみやかに策定された安全性向上計画は、未だ課題を残す一方で、多くの内容が制度化され、安全性向上施策として展開されている。

2年間にわたる安全諮問委員会からの提言についても、多くのものが会社運営の中に取り入れられた。一方で過日、航空・鉄道事故調査委員会が福知山線列車事故に関する最終報告書をまとめられた。

このような段階を迎え、JR西日本は、今後の安全性向上に向けた新たな計画策定に着手する時期にあると考える。

今後の安全性向上へ向けた取り組みは、航空・鉄道事故調査委員会の最終報告書を踏まえたものとするはもとより、2年間にわたる安全性向上計画の取り組みと安全諮問委員会での審議等を通じて形成された、以下に示す5つの視点を踏まえ、検討されるべきであると考えます。

#### 〔視点1〕チームワーク・コミュニケーションに支えられる安全

- ・ 個々人の能力向上とあわせて、互いを補完しあうことでチームとしての力は高まる。
- ・ 安全の全ての実態は現場第一線にある。事故・災害に繋がる原因もその対策のヒントも、ルールを破る背景も守る風土も、全てが現場・職場にある。経営幹部が直接、現場に足を運び、実態を自ら見聞きしながら、経営の思いもまた直接、現場に届ける努力を続けて頂きたい。
- ・ 今回構築した様々なコミュニケーションの仕組みをより充実させながら活用し続けて頂きたい。

#### 〔視点2〕専門家・技術に支えられる安全

- ・ 鉄道は、様々な専門分野の統合によって成立している。とりわけ、高度に近代化された鉄道は、様々な分野の専門家がいなければ、安全かつ効率よく運営することはできない。そして、そのような専門家を一般社会からリクルートすることは困難な状況にある。従って、鉄道が独自に涵養すべき専門家とは何かを議論し、その専門家を育てる仕組みをつくり、専門家を大切にす雰囲気や社内を醸成しなければならない。

#### 〔視点3〕ヒューマンファクター

- ・ ミスが事故に結びつかないようにする予防安全のためにも、人はミスを犯すものとの周知のためにも、ヒューマンファクターの専門家を育成し、その知識を広く社内に啓蒙する必要がある。
- ・ 社員のミスの背後要因について、ヒューマンファクターの視点を取り入れ、社員を取り巻くマニュアル、機材、作業環境などの面から探求し、有効な対策を講じて頂きたい。

#### 〔視点4〕現場力に支えられる安全

- ・ 職場の安全活動を通じて社員一人ひとりが、お客様と働く仲間の安全について自分の頭で考え、自分の体を動かすことで会社の施策は魂を吹き込まれる。また、職場の良き人間関係作り、チームワークの醸成にも貢献し、必ずや会社の風土改革にも結びつくと思う。職場の安全活動を盛んにして頂きたい。

#### 〔視点5〕地域社会・お客様とともに築く安全

- ・ 連続立体交差化、防災対策などは地域社会等の協力なくして実現は困難である。また、踏切事故やホームからの転落事故等は、通行者やお客様等の協力により防止効果を高めることができる。このように地域社会やお客様に働きかけることで安全性を向上させ、安全文化を築きあげていく、そのような取り組みも進めるべきではないか。